

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	825 国史跡上野城跡保存整備事業	会計	01	一般会計
		款	10	教育費
		項	05	社会教育費
基本	36 歴史や文化を守り、未来へと引き継ぐ	目	02	文化財保護費
		細目	437	文化財保存整備事業
行革大綱の重点事項番号		細目	51	国史跡上野城跡保存整備事業
担当部課	コード	450400	担当者	22 - 9681
	名称	教育部 生涯学習課	氏名	松田久司 連絡先 (内線) 3842

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	国史跡上野城跡筒井本丸ゾーン(城代屋敷跡周辺)の遺構 ※対象件数
成果(どうする)	城郭として整備することで、筒井時代とそれ以降の上野城の変遷等、上野城の文化財としての価値が顕在化し、多くの利用者が訪れる場となる。石垣を修復、復元することで、遺構を守り、景観や利用者の安全を確保する。
根拠法令・要綱等	文化財保護法
開始年度	平成 11 年度
終了年度	平成 27 年度
H22 事業内容	・石垣修復工事 ・史跡上野城跡保存整備指導委員会
社会情勢の変化等	平成11～16年度の調査成果に基づき、城代屋敷跡周辺の整備のため、指導委員会等で遺構表示、消失石垣の復元等について検討を行い、16年度には整備基本設計の策定を行った。また、調査成果をもとに遺構検討や史料との照合を行った。19年度より、台所門周辺石垣の整備に着手し、22年度には石垣修復工事がほぼ完了した。

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)	
1 建設用地	上野丸之内 史跡上野城跡内
2 建設面積(延床面積)	工事(石垣)平成20～22年石垣修復工事(石垣200m)
3 規模・構造	23年度～遺構整備(土塀他)
4 総事業費	366,200 千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)	
1 運営主体	
委託先	
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H21	H22	H23	H24
保持整備指導委員会の開催		回	目標	2	2	
			実績	2	2	2
			目標			
			実績			

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H21	H22	H23	H24
計画の進捗度		平成25年度までの全事業計画の年次計画に従って事業を進める。	%	目標	70	75	80
				実績	70	75	85
				目標			
				実績			

投入コスト	直接事業費計(A)	H21 決算	H22 決算	H23 当初予算	H24 当初要求
		(千円)	(千円)	(千円)	(千円)
Aの財源内訳	国庫支出金	30,000	20,000	15,000	15,000
	県支出金	15,000	10,000	7,500	7,500
	地方債	2,100	1,400	1,050	1,050
	その他	0	0	0	0
	一般財源	12,900	8,600	6,450	6,450
事業投入人件費(B)		0.6人	0.5人	0.5人	0.5人
フルコスト(A)+(B)		34,320	23,800	18,600	18,600

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必要性	法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業	
	個人の方だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業	
	特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業	
	事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業	
	市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業	
市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業		筒井本丸ゾーンは、石垣が現存し筒井天守跡等が存在するが、城郭としての整備はされておらず、見学者があまり訪れない地区である。また、上野城跡全体をみても、高石垣や内堀等は見られるが、上野城と直接的に関連する建物等はなく、全体の縄張りや、変遷等城郭の歴史について正しい理解を得られる状況といえず、城郭としての整備が必要である。
国や県、民間が同様のサービスを提供している事業		
市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業		
民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業		
受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業	○	
事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業		
【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】		
財政状況を考慮し、事業を休止した場合、市民生活への影響が大きい事業		
【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】		
有効性	事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。	
	基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高	○
	サービス水準や対象を見直す余地がある。	○
達成度	当初設定した計画を 100% 実施している。 【計画に遅れが生じている場合、改善策】	
	予算の繰越の有無 無	
	【予算の繰越がある場合、繰越の種類】	
効果性	他の事業主体の活用、事業移管が可能である。	
	基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。	
	【事業名】	
	受益者負担を求めることができる事業である。	
	全体コストにおける負担構成は適正である。	○
	コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況	
改善策	平成22～23年の間に、「史跡上野城跡城代屋敷跡及び周辺環境整備工事基本設計」平成17年3月の見直しを進め、事業の進捗に支障の無いようにする。
昨年度の取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいる 【詳細】 台所門付近の石垣は、予定通りほぼ積上げることができた。今後の整備について意見を出し合い、計画の見直しを進めている。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	児玉 泰清
事業の方向性	【方向性】 現状維持
	【理由】 発掘調査の成果をもとに19年度より台所門跡周辺石垣の整備事業に着手し、現場では、石垣修復の成果が具体的に確認されるようになり、台所門周辺石垣積み上げ工事については、本年度完成する見込みとなっている。今後、整備は城代屋敷跡地の遺構保存整備へと展開されていくため、現状維持としたい。
現時点における課題、その他	・社会情勢等の変化による補助額の縮小。 ・発掘調査で遺構の残りの悪かった表門周辺の整備等について、保存整備指導委員会等で基本設計の見直しが必要である。
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	平成23年に、「史跡上野城跡城代屋敷跡及び周辺環境整備工事基本設計」(平成17年3月)の見直しを進め、事業の進捗に支障の無いようにする。